

研究紀要第31号

# 子どもと共に創る生活

—「共有感を大切にしていって」—

1996

島根大学教育学部附属幼稚園



## は じ め に

秋の深まりとともに、研究会を迎えます。この頃は、誠に当を得た時期であり、少し大袈裟に言えば、日本人の生活文化史から編み出された素晴らしい知恵の一つといえましょう。

木々や草花が芽生え、暖かいのどかな春の季節には、人々はゆったりとした気分の中で、何か新しい希望や期待が沸き起こります。ぎらぎらと燃え盛る太陽、夏はいやが上にも肉体的躍動が促され、刺激された気分は、積極的外向的な勢いと興奮を覚え、青春時代の<sup>エネルギー</sup>「力」を感じます。そして実りの秋、収穫の秋には、それまで継続された諸々の営みの成果が具現化する時で、成果は科学時代の今日でも、人為的努力精進だけではなく、人力の遥かに及ばない自然の<sup>リズム</sup>時に従い、自然の恩恵に依るところが大きく、人々はその成果に一喜一憂します。爽やかな涼しい秋風の中で聞く虫の音に、淋しさと愁いを覚え、人々は改めて自己の内面を見直し、夏の喧騒から落ち着きを取り戻します。冬は又新しい期待と意欲を蓄積する準備の時期ともいえましょう。

さて、あまりにもかまびすしい今日、人々の生活は、昼と夜の逆転はもとより、こうした素晴らしい日本独自の四季の色どりによって引き起こされる様々な情緒を、じっくりと味わい感じ取る習慣・風潮が希薄になり、それに変わって、現実的・即物的・人工的・画一的生活パターンに陥り、豊かで便利な今の社会にあって、物質に対応する程、精神は豊かになっていません。

我々が目標としている保育の課題は、先の中教審答申の“生きる力の育成”と連動しています。「生きる力」とは、単に生きるための力でもなく、また自分勝手に好きなように生きる力でもなく、人間として、国際的社会人として「共生・調和して生きる力」に他なりません。従って、「生きる力」とは、技術・方法論の獲得ではなく、生きる知恵の育成であります。一人ひとりの個人的な資質や能力を育てるだけでなく、他人が属する共同体から与えられる諸々の価値「正義・勇気・気概・共感・協力・連帯・犠牲」といった事柄を、一人にひとりが遊びの中で悟り、身につけることです。更に、物語やお話を通じ、過去の人々の知恵や生き方を想像する力を、育てることも大切です。

教育改革は、結局人造りであり、人材にかかっています。性急な時代の波に吞まれず、物事を大きく全体を捉え、歴史に学び、柔軟でバランス感覚の優れた人材が求められます。もうそろそろ社会を席卷している効率・合理・市場主義的喧騒から一步退いて、静かな秋に実る自然と一体となった収穫の成果（四季の知恵）に学ぶ時です。子供一人ひとりが育って行く流れ、その時は、その子独自の歩みに任せ、自愛の心で見守るといふ人々の発想と支えが、豊かな保育の<sup>リズム</sup>成立に不可欠です。今、教育・保育本来の<sup>リズム</sup>時を見直し取り戻す時代と考えます。

島根大学教育学部附属幼稚園長

知 念 辰 朗

# 目 次

## 子どもと共に創る生活 ——「共有感を大切にしていこう」——

### はじめに

### 総 論

I 研究主題について .....	1
II 本年度副主題「共有感を大切にしていこう」（2年次） .....	3
—— 研究のねらいと追究の視点 ——	
1. 研究のねらいと視点 .....	3
2. 研究の方法 .....	3
III 平成8年度の研究の基盤 .....	4
1. 平成5年度から7年度までの研究を通して注視してきたこと 及び捉えてきたことの概要 .....	4
(1) 子ども同士が相互作用しながら遊びを共有し、経験を拡げていく姿から .....	4
(2) 遊びを共有しようとする子どもの願いから .....	5
(3) 「共有感」と「経験していることがら及び育ち」との関連に注視する .....	5
2. 平成7～8年度の保育実践 .....	6
—— 「共有感」を持つに至るまでのプロセスに注視する —— 実践事例1～6（本年度紀要各論より）	

### 各 論

1. 3歳児（いちご組） .....	野津 道代 .....	13
「母親と一緒に」から「友だちと心を通わせてあそぶ」までのステップをたどって —— 「一緒に」と「共有」の経験的・発達的な意味を探る ——		
2. 4歳児（3年課程・2年課程混合）「たんぽぽ組」 .....	森山 純子 .....	45
進級児と新入児の心をつなぎ合わせるものを探って		
3. 5歳児「ほし組」 .....	青木 規子 .....	73
孝祐が「友だちの中の自分」をみつけていくまで		
4. 5歳児（3年課程・2年課程混合）平成7年度「つき組」 .....	坂本千賀子 .....	115
「白雪姫の劇をしよう」というめあてを共有していく生活の中から		
5. 5歳児（3年課程・2年課程混合）平成8年度「つき組」 .....	星野 和美 .....	151
いろいろな場面での友達への思い		

— 研 究 同 人 —

園 長	知 念 辰 郎
副 園 長	中 路 博 孝
研修主任	野 津 道 代
教 論	森 山 純 子
”	星 野 和 美
”	坂 本 千 賀 子
”	青 木 規 子
講 師	松 本 里 美
前 講 師	萩 原 朱 美